

# 特許協力条約

発信人 日本国特許庁（国際調査機関）

代理人

新居 広守

様

あて名

〒532-0011

日本国大阪府大阪市淀川区西中島3丁目11番26号 新大阪末広センタービル3F 新居国際特許事務所内

PCT

国際調査機関の見解書

（法施行規則第40条の2）

〔PCT規則43の2.1〕

発送日

（日.月.年）

01.11.2005

出願人又は代理人

の書類記号 P38047-P0

今後の手続きについては、下記2を参照すること。

国際出願番号

PCT/JP2005/012773

国際出願日

（日.月.年） 11.07.2005

優先日

（日.月.年） 20.07.2004

国際特許分類 (IPC) Int.Cl.<sup>7</sup> G06F3/00 (2006.01), H04M1/247 (2006.01)

出願人（氏名又は名称）

松下電器産業株式会社

1. この見解書は次の内容を含む。

- 第I欄 見解の基礎
- 第II欄 優先権
- 第III欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成
- 第IV欄 発明の單一性の欠如
- 第V欄 PCT規則43の2.1(a)(i)に規定する新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解、それを裏付けるための文献及び説明
- 第VI欄 ある種の引用文献
- 第VII欄 国際出願の不備
- 第VIII欄 国際出願に対する意見

2. 今後の手続き

国際予備審査の請求がされた場合は、出願人がこの国際調査機関とは異なる国際予備審査機関を選択し、かつ、その国際予備審査機関がPCT規則66.1の2(b)の規定に基づいて国際調査機関の見解書を国際予備審査機関の見解書とみなさない旨を国際事務局に通知していた場合を除いて、この見解書は国際予備審査機関の最初の見解書とみなされる。

この見解書が上記のように国際予備審査機関の見解書とみなされる場合、様式PCT/ISA/220を送付した日から3月又は優先日から22月のうちいずれか遅く満了する期限が経過するまでに、出願人は国際予備審査機関に、適当な場合は補正書とともに、答弁書を提出することができる。

さらなる選択肢は、様式PCT/ISA/220を参照すること。

3. さらなる詳細は、様式PCT/ISA/220の備考を参照すること。

見解書を作成した日

14.10.2005

名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/JP)

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

5E 3052

遠藤 尊志

電話番号 03-3581-1101 内線 3521

様式PCT/ISA/237 (表紙) (2005年4月)

ATTACHMENT G

## 第Ⅰ欄 見解の基礎

1. 言語に関し、この見解書は以下のものに基づき作成した。

出願時の言語による国際出願

出願時の言語から国際調査のための言語である \_\_\_\_\_ 語に翻訳された、この国際出願の翻訳文  
(PCT規則12.3(a)及び23.1(b))

2. この国際出願で開示されかつ請求の範囲に係る発明に不可欠なヌクレオチド又はアミノ酸配列に関して、  
以下に基づき見解書を作成した。

a. タイプ  配列表

配列表に関連するテーブル

b. フォーマット  紙形式

電子形式

c. 提出時期  出願時の国際出願に含まれていたもの

この国際出願と共に電子形式により提出されたもの

出願後に、調査のために、この国際調査機関に提出されたもの

3.  さらに、配列表又は配列表に関連するテーブルを提出した場合に、出願後に提出した配列若しくは追加して提出した配列が出願時に提出した配列と同一である旨、又は、出願時の開示を超える事項を含まない旨の陳述書の提出があった。

4. 换算意見：

## 第三欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についての見解の不作成

次に関して、当該請求の範囲に記載されている発明の新規性、進歩性又は産業上の利用可能性につき、次の理由により審査しない。

国際出願全体

請求の範囲 2-8

理由：

この国際出願又は請求の範囲 \_\_\_\_\_ は国際調査をすることを要しない次の事項を内容としている（具体的に記載すること）。

明細書、請求の範囲若しくは図面（次に示す部分）又は請求の範囲 2-8 \_\_\_\_\_ の記載が不明確であるため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

請求の範囲 2-8 記載の「ガイダンス表示内容の取得順序を判定」し、「取得順序に従って取得したガイダンス表示内容を順次合成する」との事項は、一般的な事項ではなく、また、明細書には具体的なものが記載されていないから、明確性の要件を欠いている。

全部の請求の範囲又は請求の範囲 2-8 \_\_\_\_\_ が、明細書による十分な裏付けを欠くため、見解を示すことができない（具体的に記載すること）。

請求の範囲 2-8 記載の「ガイダンス表示内容の取得順序を判定」し、「取得順序に従って取得したガイダンス表示内容を順次合成する」との事項は、明細書には具体的なものが記載されていないから、明細書の開示による裏付けを欠いている。

請求の範囲 2-8 \_\_\_\_\_ について、国際調査報告が作成されていない。

入手可能な配列表が存在せず、有意義な見解を示すことができなかった。  
出願人は所定の期間内に、

実施細則の附属書Cに定める基準を満たす紙形式の配列表を提出しなかったため、国際調査機関は、認められた形式及び方法で配列表を入手することができなかった。

実施細則の附属書Cに定める基準を満たす電子形式の配列表を提出しなかったため、国際調査機関は、認められた形式及び方法で配列表を入手することができなかった。

PCT規則13の3.1(a)又は(b)に基づく命令に応じた、要求された配列表の遅延提出手数料を支払わなかった。

入手可能な配列表に関連するテーブルが存在しないため、有意義な見解を示すことができなかった。すなわち、出願人が、所定の期間内に、実施細則の附属書Cの2に定める技術的な要件を満たす電子形式のテーブルを提出しなかったため、国際調査機関は、認められた形式及び方法でテーブルを入手することができなかった。

ヌクレオチド又はアミノ酸の配列表に関連するテーブルが電子形式のみで提出された場合において、当該テーブルが、実施細則の附属書Cの2に定める技術的な要件を満たしていない。

詳細については補充欄を参照すること。

第V欄 新規性、進歩性又は産業上の利用可能性についてのPCT規則43の2.1(a)(i)に定める見解、それを裏付ける文献及び説明

1. 見解

新規性 (N)	請求の範囲 1,9-13	有
	請求の範囲 _____	無
進歩性 (I S)	請求の範囲 _____	有
	請求の範囲 1,9-13	無
産業上の利用可能性 (I A)	請求の範囲 1,9-13	有
	請求の範囲 _____	無

2. 文献及び説明

文献1: JP 5-73274 A (株式会社日立製作所) 1993.03.26, 【0024】、図2 & US 5687313 A & US 5987234 A

文献2: JP 2001-134366 A (セイコーインスツルメンツ株式会社) 2001.05.18, 全文、全図 (ファミリーなし)

文献3: JP 2001-16314 A (株式会社東芝) 2001.01.19, 全文、全図 (ファミリーなし)

請求の範囲1, 10-13

文献1の【0024】には、複数の表示領域に対応する情報を一つの領域に表示することが記載されている。また、表示領域に対応するガイドを表示すること自体は文献2図4, 5にも記載されているように周知技術に過ぎない。

よって、請求の範囲1, 10-13に係る発明は進歩性を有していない。

請求の範囲9

表示領域に対応しないガイドを表示することは文献3にも記載されているように周知技術である。

よって、請求の範囲9に係る発明は進歩性を有していない。

## 第VII欄 国際出願に対する意見

請求の範囲、明細書及び図面の明瞭性又は請求の範囲の明細書による十分な裏付についての意見を次に示す。

請求の範囲 2 – 8 記載の事項について、「ガイダンス表示内容の取得順序を判定」及び「取得順序に従って取得したガイダンス表示内容を順次合成」の具体的な実現方法が不明であり、明細書による十分な裏付けもなされていない。

また、「ガイダンス表示内容の取得順序」が「ガイダンス表示内容」の合成に如何なる影響を与えるものか不明である。